

計画事業番号	420	事務事業名	森林保全活用事業	担当部署	建設部都市整備課	電話	4225
--------	-----	-------	----------	------	----------	----	------

【基本情報】

事務区分	自治事務 法定受託事務	根拠法令等	森林・林業基本法第6条、第9条 森林法第10条の5、第10条の7				
事務事業開始年度	平成11年度	個別計画等	北広島市森林経営計画				
" 終了予定年度							
ソフト・ハード区分	ソフト事業	会計区分	一般会計	補助単独区分	補助	新規継続区分	継続

【事業概要】

1 総合計画体系	(第3章)	美しい環境につつまれた安全なまち
	(第3節)	水と緑の空間の充実
	(施策1)	緑化の推進
2 対象	市民	
3 目的と内容	仁別、三島地区の水源かん養保安林(566ha)の森林の保全に努める。 その他の市有林については、生活環境の保全や山地災害防止など森林が持つ多面的機能が十分発揮できるよう、森林経営計画に基づく除伐や下刈りなどを実施するとともに、森林ボランティアなど市民との協働により森林整備を推進する。	
4 実施内容(手段)	2019年度まで	(1)北広島団地周辺緑地の樹木整備 A=6.78ha (2)森林ボランティア等に対する森林整備活動支援 (3)市有林の巡視
	2020年度	(1)仁別地区市有林の森林整備 A=0.48ha (2)森林ボランティア等に対する森林整備活動支援 (3)市有林の巡視

【事業の計画・実績】

2019年度		2020年度	2021年度	2022年度
計画	実績	計画	計画	計画
市有林樹木管理委託 6.78ha 森林ボランティア等による森林整備活動支援等	市有林樹木管理委託 6.78ha 森林ボランティア等による森林整備活動支援等	市有林樹木管理委託 0.48ha 森林ボランティア等による森林整備活動支援等		

【評価結果・評価コメント】

総合判定		次期総合計画に向けた具体的な方向性	評価区分
前年度 2次評価	現状継続	現状継続とする。	「拡大」 「現状継続」 「要検討」 「見直し」 「統合」 「休止・廃止」 「終了」
1次評価	現状継続	森林整備計画に基づく森林経営計画に沿って市有林の間伐等の整備を実施し、健全な森林の形成を図る。	
2次評価	現状継続	現状継続とする。	

【事業費の推移】

(単位:千円)

			2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
決算額、当初予算額又は推進計画額			2,175		1,715					
事業額	直接事業費	国支出金								
		道支出金	770		648					
		地方債								
		その他特財	5		1,067					
		一般財源	1,400							
	合計	2,175		1,715						
人件費 (左側:一般、 右側:再任用)	人数(年間)	0.20	0.00	0.20	0.00					
	1人当り年間平均人件費	8,200	4,500	8,200	4,500					
	= x	1,640	0	1,640	0					
総事業費 +			3,815		3,355					

【評価指標】

			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
活動指標	仁別・三島市有林 植栽箇所の保有面積	目標値	34.86	34.86		
		実績値	34.86			
	市有林整備	目標値	6.78	0.48		
		実績値	6.78			
市民ボランティア等による整備	目標値	2	2			
	実績値	2				
成果指標	市有林整備状況 実施区域 / 整備区域	目標値	100	100		
		実績値	100.0			
	【指標の定義(算式等)】	目標値				
		実績値				

【評価項目】

チェック項目	評点	コメント
妥当性 ・税金を使って行うこと(補助すること)が妥当ですか？ ・上位の施策への貢献度は大きいですか？ ・特定の団体の利益に偏っていませんか？ 【評点欄】3妥当、2どちらかという妥当、1妥当でない 【コメント欄】理由を記入	3	森林の持つ多面的、公益的な機能を発揮するため必要な事業である。
達成度 ・計画どおりに成果があがっていますか？ 【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない 【コメント欄】理由を記入	3	仁別・三島地区の保安林については、北海道による治山事業実施箇所の維持管理や三別沢林道改良工事の完了により整備が進んでいる。その他の市有林については、森林ボランティア等による整備を実施しているため、計画どおり成果があがっている。
成果向上 ・成果が現状よりも向上する可能性がありますか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入	2	緑豊かな自然環境を保全するために必要な事業を実施しているが、ボランティアの増員により、さらなる成果の向上が見込める。
経済性 ・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入	3	市有林の樹木管理に際しては、コスト削減を図りながら事業を進めている。その他は、ボランティアの活動を支えるための最低限の予算であり、費用対効果は十分と言える。

【法律で実施が義務付けられている事務事業か】	法律の義務付けあり	法律の義務付けなし
【民間活力の活用性評価】 (事業担当部局が評価)	民間等での実施または市民等との協働が可能である。 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。	

計画事業番号	421	事務事業名	緑化推進事業	担当部署	建設部都市整備課	電話	4225
--------	-----	-------	--------	------	----------	----	------

【基本情報】

事務区分	自治事務 法定受託事務	根拠法令等	北広島市緑のまちづくり条例 北広島市補助金等交付規則				
事務事業開始年度	平成6年度	個別計画等	-				
〃 終了予定年度							
ソフト・ハード区分	ソフト事業	会計区分	一般会計	補助単独区分	単独	新規継続区分	継続

【事業概要】

1 総合計画体系	(第3章)	美しい環境につつまれた安全なまち
	(第3節)	水と緑の空間の充実
	(施策1)	緑化の推進
2 対象	市民、自治会、新生児、北広島市緑化推進委員会、北広島花の会	
3 目的と内容	緑と花のある美しいまちづくりを推進するため、市民の参加による公共施設や街路樹への花苗植栽等、花いっぱい運動を展開するとともに、オープンガーデン見学会や花のまちコンクール・誕生記念樹の贈呈事業を実施する。 また、緑を適切に保全するため、「緑のまちづくり条例」に基づく緑の保全及び民間施設における緑化を推進する。	
4 実施内容(手段)	2019年度まで	(1)「花のまちコンクール」の開催 (2)「オープンガーデン見学会」の実施 (3)「誕生記念樹」の贈呈 (4)「北広島市緑化推進委員会」への交付金交付 (5)「北広島花の会」への補助金交付 (6)開発者との緑化計画協議
	2020年度	(1)「花のまちコンクール」の開催～2020年度は新型コロナウイルス感染対策のため開催中止 (2)「オープンガーデン見学会」の実施～2020年度は新型コロナウイルス感染対策のため開催中止 (3)「誕生記念樹」の贈呈 (4)「北広島市緑化推進委員会」への交付金交付 (5)「北広島花の会」への補助金交付 (6)開発者との緑化計画協議

【事業の計画・実績】

2019年度		2020年度	2021年度	2022年度
計画	実績	計画	計画	計画
オープンガーデン見学会の実施 花のまちコンクールの開催 誕生記念樹の贈呈 北広島市緑化推進委員会、北広島花の会への支援 開発者との緑化協議	オープンガーデン見学会の実施 3日間 延べ162人 花のまちコンクールの開催 応募43件 誕生記念樹の贈呈 156人 北広島市緑化推進委員会、北広島市花の会への支援 開発者との緑化計画協議	オープンガーデン見学会の実施 花のまちコンクールの開催 誕生記念樹の贈呈 北広島市緑化推進委員会、北広島花の会への支援 開発者との緑化協議		

【評価結果・評価コメント】

総合判定		次期総合計画に向けた具体的な方向性	評価区分
前年度 2次評価	現状継続	現状継続とする。	「拡大」 「現状継続」 「要検討」 「見直し」 「統合」 「休止・廃止」 「終了」
1次評価	現状継続	緑の基本計画に基づき、市民・事業者・行政が連携して緑化活動を推進する。 また、緑の果たす役割の重要性を伝えるため、緑の募金活動を通じて市民への意識付けや啓発を行うとともに、花いっぱい運動等の支援を図る。	
2次評価	現状継続	現状継続とする。	

【事業費の推移】

(単位:千円)

			2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
決算額、当初予算額又は推進計画額			13,591		5,143					
事業額	直接事業費	国支出金								
		道支出金								
		地方債								
		その他特財	13,459		5,143					
		一般財源	132							
		合計	13,591		5,143					
	人件費 (左側:一般、 右側:再任用)	人数(年間)	0.80	0.00	0.80	0.00				
		1人当り年間平均人件費	8,200	4,500	8,200	4,500				
		= ×	6,560	0	6,560	0				
	総事業費 +			20,151		11,703				

【評価指標】

			単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
活動指標	花のまちコンクール応募件数	目標値	件	80	80		
		実績値		43			
	オープンガーデン見学会延べ参加人数	目標値	人	180	180		
		実績値		162			
誕生記念樹贈呈人数	目標値	人	280	280			
	実績値		156				
花いっぱい運動参加自治会数	目標値	団体	150	150			
	実績値		115				
成果指標	オープンガーデン見学会参加率	目標値	%	100	100		
		実績値		90.0			
	誕生記念樹贈呈率	目標値	%	100	100		
		実績値		55.7			
花いっぱい運動参加自治会率	目標値	%	100	100			
	実績値		76.7				

【評価項目】

チェック項目	評点	コメント
妥当性 ・税金を使って行うこと(補助すること)が妥当ですか？ ・上位の施策への貢献度は大きいですか？ ・特定の団体の利益に偏っていませんか？ 【評点欄】3妥当、2どちらかという妥当、1妥当でない 【コメント欄】理由を記入	3	「花と緑を大切に作る心を育てる」ことを目標に市民と一体となった美しいまちづくり事業が展開されている。市民参加により美しいまちづくりを進めるために行政の関与は必要である。
達成度 ・計画どおりに成果があがっていますか？ 【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない 【コメント欄】理由を記入	3	美しいまちづくり推進のための市民参加は定着しており、目標は達成され成果は上がっている。
成果向上 ・成果が現状よりも向上する可能性がありますか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入	3	当該事業は、花のある美しいまちづくりと緑化の推進を目的として継続しているが、さらなる成果向上には新たな経費が必要となる。
経済性 ・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入	3	将来的な花苗等の経費を節減する方策として、実施団体に対して宿根草の花苗の植栽にも取り組んでいただいているところであるが、花苗の配布要望に対して実際の配布数量については調整して減じていることから、花のある美しいまちづくりを推進する上では事業費を削減する余地はない。

【法律で実施が義務付けられている事務事業か】	法律の義務付けあり	法律の義務付けなし
【民間活力の活用性評価】 (事業担当部局が評価)	民間等での実施または市民等との協働が可能である。 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。	

付 表

補助金・交付金 交付先団体等の状況説明書

計画事業番号 00421-1

< 継続用 >

【交付先団体等の概要】

補助金・交付金名	北広島市緑化推進委員会交付金		
交付先の名称 及び代表者名	北広島市緑化推進委員会 会長 藤山 康雄	設立年	昭和61年
構成員(団体)数	11名(8団体) (2020年3月末現在)		
交付先団体等の 活動目的	緑のまちづくり推進事業を実施し、自然や緑を大切にする緑愛思想の啓蒙普及に寄与し、市民参加による美しいまちづくりを進める。		
交付先団体等の 活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・緑の募金運動 ・植樹事業 ・花いっぱい運動事業 ・緑化推進支援事業 		
事務局の状況 (2019年度)	補助団体にある	市役所にある	
補助金等の充当 状況(2019年度)	運営費のみに充当	事業費のみに充当	運営費・事業費の双方に充当

【交付先団体等の決算・予算の状況】

(単位：千円)

	区 分	2018年度(決算)	2019年度(決算)	2020年度(予算)	備 考
収 入	本市補助・交付金の額(A)	4,000	4,000	1,600	
	緑の募金	770	765	750	
	雑収入	1	1	1	
	繰越金	103	232	116	
	収 入 合 計(B)	4,874	4,998	2,467	
支 出	納付金(2020-運営費)	219	196	230	2020-事務費含む
	負担金	10	10	10	
	植樹事業	215	251	250	
	花いっぱい運動	3,585	3,814	1,655	
	小規模緑化事業	557	561	300	
	協力事業	29	14	22	
	事務費	27	34	-	
	支 出 合 計(C)	4,642	4,880	2,467	
繰越金	収入(B) - 支出(C)	232	118	0	
全体支出に対する本市 補助・交付金の割合 (A)÷(C)		86 %	82 %	65 %	
補助・交付金の対象経費 (項目)		運営費・事業費	運営費・事業費	運営費・事業費	
補助・交付金の対象経費(金額)(D)		4,103	4,232	1,716	
対象経費に対する補助または交付金の割合 (A)÷(D)		97 %	95 %	93 %	
補助・交付金の算出根拠		定額			

付 表

補助金・交付金 交付先団体等の状況説明書

計画事業番号 00421-2

< 継続用 >

【交付先団体等の概要】

補助金・交付金名	北広島花の会補助金		
交付先の名称 及び代表者名	北広島花の会 会長 中澤 裕美	設立年	平成10年
構成員(団体)数	会員80名 (2020年3月末現在)		
交付先団体等の 活動目的	花づくりの好きな人が集い、個々の技術の向上と会員相互の親睦を図ると共に地域の花のまちづくりと、生き甲斐づくりなどに広く寄与することを目的とする。		
交付先団体等の 活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・フラワーコンテスト開催 ・オープンガーデン開催 ・訪問研修会開催 ・花マップ発行 		
事務局の状況 (2019年度)	補助団体にある	市役所にある	
補助金等の充当 状況(2019年度)	運営費のみに充当	事業費のみに充当	運営費・事業費の双方に充当

【交付先団体等の決算・予算の状況】

(単位：千円)

	区 分	2018年度(決算)	2019年度(決算)	2020年度(予算)	備 考
収 入	本市補助・交付金の額(A)	250	250	250	
	会費	50	50	50	
	収 入 合 計(B)	300	300	300	
支 出	花マップ印刷	200	200	200	
	フラワーコンテスト事業	100	100	100	
	支 出 合 計(C)	300	300	300	
繰 越 金	収入(B) - 支出(C)	0	0	0	
全体支出に対する本市 補助・交付金の割合 (A)÷(C)		83 %	83 %	83 %	
補助・交付金の対象経費 (項目)		事業費	事業費	事業費	
補助・交付金の対象経費 (金額) (D)		300	300	300	
対象経費に対する補助 または 交付金の割合 (A)÷(D)		83 %	83 %	83 %	
補助・交付金の算出根拠		定額			

計画事業番号	422	事務事業名	緑の活動拠点整備事業	担当部署	建設部都市整備課	電話	4225
--------	-----	-------	------------	------	----------	----	------

【基本情報】

事務区分	自治事務	法定受託事務	根拠法令等	-			
事務事業開始年度	平成17年度		個別計画等	-			
" 終了予定年度							
ソフト・ハード区分	ソフト事業	会計区分	一般会計	補助単独区分	単独	新規継続区分	継続

【事業概要】

1 総合計画体系	(第3章) 美しい環境につつまれた安全なまち	
	(第3節) 水と緑の空間の充実	
	(施策1) 緑化の推進	
2 対象	市民、森林ボランティア	
3 目的と内容	富ヶ岡地区の市有林を緑の活動拠点と位置付け、市民や中学生等の森林施業体験、自然観察、間伐材利用によるキノコのホダ木作りなど体験学習や環境学習の場として、また森林ボランティアの活動、苗木作りの場として森を提供するとともに、家屋・倉庫については資材の保管や作業場などとして有効活用を図り、緑の活動拠点として整備・活用を進める。	
4 実施内容(手段)	2019年度まで	(1)家屋の維持管理 (2)森林ボランティア活動(苗木作り、植樹、下草刈り等) (3)緑陽中学校体験学習(下草刈り、枝落とし等) (4)森林ボランティア等活動用資材の購入 (5)駐車場等修繕
	2020年度	(1)家屋の維持管理 (2)森林ボランティア活動(苗木作り、植樹、下草刈り等) (3)緑陽中学校体験学習(下草刈り、枝落とし等) (4)森林ボランティア等活動用資材の購入 (5)駐車場等修繕

【事業の計画・実績】

2019年度		2020年度	2021年度	2022年度
計画	実績	計画	計画	計画
家屋等の維持管理 活動用資材等の購入	家屋等の維持管理 活動用資材等の購入	家屋等の維持管理 活動用資材等の購入	/	/

【評価結果・評価コメント】

総合判定		次期総合計画に向けた具体的な方向性	評価区分
前年度 2次評価	現状継続	現状継続とする。	「拡大」 「現状継続」 「要検討」 「見直し」 「統合」 「休止・廃止」 「終了」
1次評価	現状継続	富ヶ岡地区の市有林は、市民等による森林施業体験や森林ボランティアの活動の場として適地であることから、緑の活動拠点として今後も有効活用努める。	
2次評価	現状継続	現状継続とする。	

【事業費の推移】

(単位:千円)

			2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
決算額、当初予算額又は推進計画額			77		153					
事業額	直接事業費	国支出金								
		道支出金								
		地方債								
		その他特財								
		一般財源	77		153					
		合計	77		153					
	人件費 (左側:一般、 右側:再任用)	人数(年間)	0.20	0.00	0.20	0.00				
	1人当り年間平均人件費	8,200	4,500	8,200	4,500					
	= ×	1,640	0	1,640	0					
総事業費 +			1,717		1,793					

【評価指標】

			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
活動指標	森林ボランティアの活動延人数	目標値	310	310		
		実績値	1399			
	緑陽中学校体験学習の開催 (下草刈り1回、下枝刈り1回)	目標値	2	2		
		実績値	2			
成果指標	森林ボランティアによる整備 【指標の定義(算式等)】	目標値	1.48	1.48		
		実績値	1.48			
	緑陽中学校体験学習参加人数 【指標の定義(算式等)】	目標値	100	100		
		実績値	64			
		目標値				
		実績値				

【評価項目】

チェック項目	評点	コメント
妥当性 ・税金を使って行うこと(補助すること)が妥当ですか？ ・上位の施策への貢献度は大きいですか？ ・特定の団体の利益に偏っていませんか？ 【評点欄】3妥当、2どちらかという妥当、1妥当でない 【コメント欄】理由を記入	3	森林施業体験や森林の保全及び整備を市民の参加を得て実施するための活動拠点事業は、緑愛思想を高めるとともに、豊かな自然と緑を育成していくために必要な事業である。
達成度 ・計画どおりに成果があがっていますか？ 【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない 【コメント欄】理由を記入	3	森林ボランティアによる育苗や森林整備、森林資源の有効活用研究等、活動フィールドとして十分活用されている。また、市民植樹祭や緑陽中学校体験学習で植栽された苗木は順調に生育し、成果は上がっている。
成果向上 ・成果が現状よりも向上する可能性がありますか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入	2	富ヶ岡地区の市有林において、森林施業体験や環境学習の場として、市内中学校への参加を働きかけ、さらなる成果の向上を図る。
経済性 ・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入	3	市民等を対象として森林施業体験や森林ボランティアの活動の場として提供する上で最低限の経費で実施している。

【法律で実施が義務付けられている事務事業か】	法律の義務付けあり	法律の義務付けなし
【民間活力の活用性評価】 (事業担当部局が評価)	民間等での実施または市民等との協働が可能である。 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。	

計画事業番号	424	事務事業名	輪厚川親水事業	担当部署	建設部都市整備課	電話	4225
--------	-----	-------	---------	------	----------	----	------

【基本情報】

事務区分	自治事務	法定受託事務	根拠法令等	北広島市補助金等交付規則			
事務事業開始年度	平成6年度		個別計画等	-			
" 終了予定年度							
ソフト・ハード区分	ソフト事業	会計区分	一般会計	補助単独区分	単独	新規継続区分	継続

【事業概要】

1 総合計画体系	(第 3 章)	美しい環境につつまれた安全なまち
	(第 3 節)	水と緑の空間の充実
	(施策 2)	親水空間の保全
2 対象	市民、輪厚川と親しむ会	
3 目的と内容	市内唯一の親水河川である輪厚川の景観維持や環境整備を市民と協働で実施し、市民に親しまれる憩いの場(親水空間)を提供する。	
4 実施内容(手段)	2019年度まで	(1)輪厚川河川敷草刈(中央橋～JR架橋)、花壇整備 (2)「輪厚川と親しむ会」への交付金の交付 ・河川清掃 ・輪厚川周辺草刈り(JR架橋～大正橋) ・コスモス畑整備 ・釣り体験開催
	2020年度	(1)輪厚川河川敷草刈(中央橋～JR架橋)、花壇整備 (2)「輪厚川と親しむ会」への交付金の交付 ・河川清掃 ・輪厚川周辺草刈り(JR架橋～大正橋) ・コスモス畑整備 ・釣り体験開催～2020年度は新型コロナウイルス感染対策等のため開催中止

【事業の計画・実績】

2019年度		2020年度	2021年度	2022年度
計画	実績	計画	計画	計画
輪厚川河川敷草刈等委託 輪厚川と親しむ会への支援	輪厚川河川敷草刈等委託 輪厚川と親しむ会への支援	輪厚川河川敷草刈等委託 輪厚川と親しむ会への支援		

【評価結果・評価コメント】

総合判定		次期総合計画に向けた具体的な方向性	評価区分
前年度 2次評価	現状継続	現状継続とする。	「拡大」 「現状継続」 「要検討」 「見直し」 「統合」 「休止・廃止」 「終了」
1次評価	現状継続	市民との協働により、輪厚川の河川敷地の自然環境と景観の保全を図るとともに、市民が川に親しむ憩いの場としての親水空間の活用を図る。	
2次評価	現状継続	現状継続とする。	

【事業費の推移】

(単位:千円)

			2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
決算額、当初予算額又は推進計画額			1,499		1,529					
事業額	直接事業費	国支出金								
		道支出金								
		地方債								
		その他特財	1,499		1,529					
		一般財源								
	合計	1,499		1,529						
	人件費 (左側:一般、 右側:再任用)	人数(年間)	0.10	0.00	0.10	0.00				
	1人当り年間平均人件費	8,200	4,500	8,200	4,500					
	= x	820	0	820	0					
総事業費 +			2,319		2,349					

【評価指標】

			単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
活動指標	輪厚川河川敷地草刈り	目標値	回	3	3		
		実績値		3			
	花壇整備(花苗植栽・除草)	目標値	箇所	8	8		
		実績値		8			
コスモス畑整備(除草)	目標値	箇所	1	1			
	実績値		1				
成果指標	輪厚川河川敷地草刈面積 【指標の定義(算式等)】	目標値	m ²	8,550	8,550		
		実績値		8,550			
	【指標の定義(算式等)】	目標値					
		実績値					

【評価項目】

チェック項目	評点	コメント
妥当性 ・税金を使って行うこと(補助すること)が妥当ですか? ・上位の施策への貢献度は大きいですか? ・特定の団体の利益に偏っていませんか? 【評点欄】3妥当、2どちらかという妥当、1妥当でない 【コメント欄】理由を記入	3	憩いの場としての河川環境の整備や保全であり、親水事業として行政が関わるべき事業である。
達成度 ・計画どおりに成果があがっていますか? 【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない 【コメント欄】理由を記入	3	当該区域は、優れた景観を有し、市民に憩いの場として定着している。 「輪厚川と親しむ会」は、市民のボランティアにより事業が成立しており、十分に成果があがっている。
成果向上 ・成果が現状よりも向上する可能性がありますか? 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入	2	市民に憩いの場を提供することを目的として、さらなる施設整備により、利用者増が見込まれる。
経済性 ・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか? 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入	3	ボランティアの活動を支えるための最低限の予算で行っている。

【法律で実施が義務付けられている事務事業か】	法律の義務付けあり	法律の義務付けなし
【民間活力の活用性評価】 (事業担当部局が評価)	民間等での実施または市民等との協働が可能である。 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。	

付 表

補助金・交付金 交付先団体等の状況説明書

計画事業番号 00424

< 継続用 >

【交付先団体等の概要】

補助金・交付金名	輪厚川と親しむ会交付金		
交付先の名称 及び代表者名	輪厚川と親しむ会 会長 竹村 画二	設立年	平成9年
構成員(団体)数	15団体 (2020年3月末現在)		
交付先団体等の 活動目的	河川愛護の思想を育て、親水広場の環境の向上を図る。		
交付先団体等の 活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・草刈り4～5回/年 ・花壇整備、コスモス畑整備 ・ゴミ拾い ・釣り体験の開催 		
事務局の状況 (2019年度)	補助団体にある	市役所にある	
補助金等の充当 状況(2019年度)	運営費のみに充当	事業費のみに充当	運営費・事業費の双方に充当

【交付先団体等の決算・予算の状況】

(単位：千円)

	区 分	2018年度(決算)	2019年度(決算)	2020年度(予算)	備 考
収 入	本市補助・交付金の額(A)	0	105	105	
	道交付金	186	186	186	
	会費	70	70	70	
	協賛金	0	30	0	
	雑収入	0	6	1	
	繰越金	57	119	84	
	収 入 合 計(B)	313	516	446	
支 出	草刈り	108	108	110	
	草刈用消耗品	31	104	104	
	花壇、コスモス畑整備	8	8	10	
	釣り体験事業	41	104	106	
	事務費	5	1	8	
	保険料	1	21	22	
	草刈機購入用積立金	0	86	86	
支 出 合 計(C)	194	432	446		
繰 越 金	収入(B) - 支出(C)	119	84	0	
全体支出に対する本市 補助・交付金の割合 (A)÷(C)		0 %	24 %	24 %	
補助・交付金の対象経費 (項目)		運営費・事業費	運営費・事業費	運営費・事業費	
補助・交付金の対象経費 (金額) (D)		194	346	360	
対象経費に対する補助または交付金の割合 (A)÷(D)		0 %	30 %	29 %	
補助・交付金の算出根拠	定額				

計画事業番号	426	事務事業名	都市公園整備事業	担当部署	建設部都市整備課	電話	4221
--------	-----	-------	----------	------	----------	----	------

【基本情報】

事務区分	自治事務 法定受託事務	根拠法令等	都市公園法第2条の3				
事務事業開始年度	平成22年度	個別計画等	-				
" 終了予定年度							
ソフト・ハード区分	ハード事業	会計区分	一般会計	補助単独区分	補助	新規継続区分	継続

【事業概要】

1 総合計画体系	(第3章)	美しい環境につつまれた安全なまち
	(第3節)	水と緑の空間の充実
	(施策3)	公園の整備
2 対象	公園施設	
3 目的と内容	安全で快適な緑豊かな都市環境の形成を推進し、豊かな市民生活の実現を図るため、公園の整備及び改修を行う。	
4 実施内容(手段)	2019年度まで	平成22～31年度：つつじヶ丘公園や稲穂緑地等の、老朽化が著しく処分制限期間を超過した運動施設、遊戯施設等の改修及びかぜの子公園等の便所のバリアフリー化を実施した。 平成22年度～平成27年度 公園施設改修 48公園 435,104千円、現況測量及び用地買収等 55,620千円 平成28年度：公園施設改修 5公園 66,190千円 平成29年度：公園施設改修 9公園 82,604千円、街区公園整備 12,370千円 平成30年度：公園施設改修 11公園 127,440千円、街区公園整備 30,790千円 平成31年度：公園施設改修 5公園 62,272千円
	2020年度	なかよし公園等の公園施設において、老朽化が著しく処分制限期間を超過した運動施設や遊戯施設等の改修を実施する。

【事業の計画・実績】

2019年度		2020年度	2021年度	2022年度
計画	実績	計画	計画	計画
つつじヶ丘公園他3公園の施設改修 稲穂公園の法面復旧 南公園の四阿設置	つつじヶ丘公園他3公園の施設改修 稲穂公園の法面復旧 南公園の四阿設置	なかよし公園他6公園の施設改修 大曲幸緑地の法面復旧		

【評価結果・評価コメント】

総合判定		次期総合計画に向けた具体的な方向性	評価区分
前年度 2次評価	現状継続	現状継続とする。	「拡大」 「現状継続」 「要検討」 「見直し」 「統合」 「休止・廃止」 「終了」
1次評価	現状継続	子供や高齢者をはじめ地域の誰もが身近に利用できる公園の整備や公園利用者が安全で安心して利用することができる公園施設の改修を行う。	
2次評価	現状継続	現状継続とする。	

【事業費の推移】

(単位:千円)

			2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
決算額、当初予算額又は推進計画額			69,902		104,721					
事業額	直接事業費	国支出金	10,959		34,420					
		道支出金								
		地方債	46,800		58,600					
		その他特財	18		400					
		一般財源	12,125		11,301					
		合計	69,902		104,721					
	人件費 (左側:一般、 右側:再任用)	人数(年間)	1.00	0.00	1.00	0.00				
	1人当り年間平均人件費	8,200	4,500	8,200	4,500					
	= ×	8,200	0	8,200	0					
総事業費 +			78,102		112,921					

【評価指標】

指標名		単位	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
活動指標	改修公園数【遊戯施設】	目標値	101		101					
		実績値	64		66					
	目標値									
	実績値									
成果指標	【指標の定義(算式等)】	目標値								
		実績値								
	目標値									
	実績値									

【評価項目】

チェック項目	評点	コメント
妥当性 ・税金を使って行うこと(補助すること)が妥当ですか？ ・上位の施策への貢献度は大きいですか？ ・特定の団体の利益に偏っていませんか？ 【評点欄】3妥当、2どちらかという妥当、1妥当でない 【コメント欄】理由を記入	3	都市公園の管理は、地方公共団体の設置に係る都市公園にあっては当該地方公共団体が行うとされており、公園利用者が安全で安心して施設を利用するために行政が施設を改築することは妥当である。 また、街区公園の整備については、北広島市都市公園条例に規定された、市民1人当たりの敷地面積の標準を達成するために必要な事業である。
達成度 ・計画どおりに成果があがっていますか？ 【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない 【コメント欄】理由を記入	3	国の社会資本整備総合交付金事業を活用することにより概ね計画どおりに成果をあげている。
成果向上 ・成果が現状よりも向上する可能性がありますか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入	3	当該事業は改築・更新等の実施に対し、国の社会資本整備総合交付金を活用していることから成果の向上の余地はない。
経済性 ・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入	3	公園施設の整備・改築に際しては、コストの削減を図りながら事業を進めている。

【法律で実施が義務付けられている事務事業か】	法律の義務付けあり	法律の義務付けなし
【民間活力の活用性評価】 (事業担当部局が評価)	民間等での実施または市民等との協働が可能である。 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。	

計画事業番号	614	事務事業名	市道整備事業(補助)	担当部署	建設部都市整備課	電話	4232
--------	-----	-------	------------	------	----------	----	------

【基本情報】

事務区分	自治事務 法定受託事務	根拠法令等	道路法、道路構造令				
事務事業開始年度	平成24年度	個別計画等	-				
" 終了予定年度							
ソフト・ハード区分	ハード事業	会計区分	一般会計	補助単独区分	補助	新規継続区分	継続

【事業概要】

1 総合計画体系	(第5章)	快適な生活環境のまち
	(第3節)	道路の整備
	(施策1)	市内幹線道路・生活道路等の整備
2 対象	沿線住民及び通行車両	
3 目的と内容	未改良区間や老朽化した路線の整備を拡大し、安全で快適な道路環境を確保する。	
4 実施内容(手段)	2019年度まで	大曲鍛山線(JR工事負担金)橋梁上部工架設 N=1基 (道路改築工事)道路改築工事 L=198m(橋梁部含まず)、用地取得、物件補償 南9号線 測量設計 輪厚三島線 測量設計、支障物件調査、用地取得、物件補償
	2020年度	大曲鍛山線(改良舗装工事)L=200m、(舗装工事)L=205m、雨水排水施設整備工事、用地取得、物件補償 共栄南1号線 L=200m 南9号線 測量設計、用地取得 輪厚三島線 L=408m、用地取得、残地補償

【事業の計画・実績】

2019年度		2020年度	2021年度	2022年度
計画	実績	計画	計画	計画
大曲鍛山線 L=248m、橋梁上部架設、用地取得、物件補償 南9号線 測量設計 輪厚三島線 支障物件調査、用地取得、物件補償	大曲鍛山線 L=198m(橋梁部含まず)、橋梁上部架設 南9号線 交付金の減額配分につき未実施 輪厚三島線 支障物件調査、用地取得、物件補償	大曲鍛山線(改良舗装工事)L=200m、(舗装工事)L=205m、雨水排水施設整備工事、用地取得、物件補償 共栄南1号線 L=200m 南9号線 測量設計、用地取得 輪厚三島線 L=408m、用地取得、残地補償		

【評価結果・評価コメント】

総合判定		次期総合計画に向けた具体的な方向性	評価区分
前年度2次評価	現状継続	現状継続とする。	「拡大」 「現状継続」 「要検討」 「見直し」 「統合」 「休止・廃止」 「終了」
1次評価	現状継続	現状継続とする。	
2次評価	現状継続	現状継続とする。	

【事業費の推移】

(単位:千円)

			2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
決算額、当初予算額又は推進計画額			308,324		433,482					
事業額	直接事業費	国支出金	87,522		260,550					
		道支出金								
		地方債	197,800		150,300					
		その他特財								
		一般財源	23,002		22,632					
		合計	308,324		433,482					
人件費 (左側:一般、 右側:再任用)	人数(年間)	2.50	0.00	2.50	0.00					
	1人当り年間平均人件費	8,200	4,500	8,200	4,500					
	= ×	20,500	0	20,500	0					
総事業費 +			328,824		453,982					

【評価指標】

指標名		単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
活動指標	整備延長	目標値	5,825	6,589		
		実績値	5,775			
		目標値				
		実績値				
成果指標	整備率 【累積整備延長 / 全体計画延長】	目標値	61.6	69.7		
		実績値	61.1			
	【指標の定義(算式等)】	目標値				
		実績値				

【評価項目】

チェック項目	評点	コメント
妥当性 ・税金を使って行うこと(補助すること)が妥当ですか？ ・上位の施策への貢献度は大きいですか？ ・特定の団体の利益に偏っていませんか？ 【評点欄】3妥当、2どちらかという妥当、1妥当でない 【コメント欄】理由を記入	3	道路を利用する歩行者や車両等の通行の安全を確保するために行政が道路整備を行うことは妥当である。
達成度 ・計画どおりに成果があがっていますか？ 【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない 【コメント欄】理由を記入	2	国の社会資本整備総合交付金及び防衛施設周辺整備統合事業費補助金を充当して実施していることから、各年度の補助金等の配分に応じた整備を行っており、計画どおりには進捗しない面がある。
成果向上 ・成果が現状よりも向上する可能性がありますか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入	2	路線の整備計画内容に応じた補助金制度を活用することで成果の向上を図る。
経済性 ・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入	3	道路の新設や改築に際しては、常にコストの削減を図りながら事業を進めている。

【法律で実施が義務付けられている事務事業か】	法律の義務付けあり	法律の義務付けなし
【民間活力の活用性評価】 (事業担当部局が評価)	民間等での実施または市民等との協働が可能である。 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。	

計画事業番号	615	事務事業名	生活道路整備事業	担当部署	建設部都市整備課	電話	4233
--------	-----	-------	----------	------	----------	----	------

【基本情報】

事務区分	自治事務 法定受託事務	根拠法令等	道路法、道路構造令				
事務事業開始年度	昭和51年度	個別計画等	-				
" 終了予定年度							
ソフト・ハード区分	ハード事業	会計区分	一般会計	補助単独区分	補助	新規継続区分	継続

【事業概要】

1 総合計画体系	(第5章) 快適な生活環境のまち	
	(第3節) 道路の整備	
	(施策1) 市内幹線道路・生活道路等の整備	
2 対象	沿線住民及び通行車両	
3 目的と内容	市民にとって最も身近な生活道路を整備することで、振動や防塵対策、雨水の滞留防止を図り、安全で快適な道路環境を確保する。	
4 実施内容(手段)	2019年度まで	(一次改築) 全整備目標延長 L=20.0km 2019年度までの整備延長 L=19.4km 2019年度までの整備率 96.9%
	2020年度	(二次改築) 全整備目標延長 L=47.9km 2019年度までの整備延長 L=12.6km 2019年度までの整備率 26.2%
	2020年度	(一次改築) 測量設計委託 L=0m 道路改良工事 L=100m 2020年度整備率 97.4%(計画)
		(二次改築) 測量設計委託 L=450m 道路改良工事 L=536m 2020年度整備率 27.4%(計画)

【事業の計画・実績】

2019年度		2020年度	2021年度	2022年度
計画	実績	計画	計画	計画
(二次改築) 路線測量設計 L=210m 道路改良舗装 L=730m	(二次改築) 路線測量設計 L=200m 道路改良舗装 L=714m	(一次改築) 道路改良舗装 L=100m (二次改築) 路線測量設計 L=450m 道路改良舗装 L=536m	/	/

【評価結果・評価コメント】

総合判定		次期総合計画に向けた具体的な方向性	評価区分
前年度 2次評価	現状継続	現状継続とする。	「拡大」 「現状継続」 「要検討」 「見直し」 「統合」 「休止・廃止」 「終了」
1次評価	現状継続	現状継続とする。当事業における2次改築の整備率は26.2%となっており、目標達成に向け、引続き事業を進める。	
2次評価	現状継続	現状継続とする。	

【事業費の推移】

(単位:千円)

			2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
決算額、当初予算額又は推進計画額			188,851		178,522					
事業額	直接事業費	国支出金	91,336		105,900					
		道支出金								
		地方債	91,400		68,400					
		その他特財								
		一般財源	6,115		4,222					
		合計	188,851		178,522					
人件費 (左側:一般、 右側:再任用)	人数(年間)	2.00	0.00	2.00	0.00					
	1人当り年間平均人件費	8,200	4,500	8,200	4,500					
	= ×	16,400	0	16,400	0					
総事業費 +			205,251		194,922					

【評価指標】

指標名		単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
活動指標	整備延長(一次改築)	目標値	19,375	19,475		
		実績値	19,375			
	整備延長(二次改築)	目標値	12,581	13,101		
		実績値	12,565			
	目標値					
	実績値					
成果指標	整備率(一次改築)	目標値	96.9%	97.4%		
	【累積整備延長/全体計画延長】	実績値	96.9%			
	整備率(二次改築)	目標値	26.3%	27.4%		
	【累積整備延長/全体計画延長】	実績値	26.2%			
	【指標の定義(算式等)】	実績値				

【評価項目】

チェック項目	評点	コメント
妥当性 ・税金を使って行うこと(補助すること)が妥当ですか？ ・上位の施策への貢献度は大きいですか？ ・特定の団体の利益に偏っていませんか？ 【評点欄】3妥当、2どちらかという妥当、1妥当でない 【コメント欄】理由を記入	3	道路を利用する歩行者や車両等の通行の安全を確保するために行政が道路整備を行うことは妥当である。
達成度 ・計画どおりに成果があがっていますか？ 【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない 【コメント欄】理由を記入	3	老朽化した路線の再整備や安全施設の設置を行うことにより通行の安全が確保されていることから、計画どおりに成果があがっている。
成果向上 ・成果が現状よりも向上する可能性がありますか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入	2	路線の整備計画内容に応じた補助金制度を活用することで成果の向上を図る。
経済性 ・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入	3	道路の新設や改築に際しては、常にコストの削減を図りながら事業を進めている。

【法律で実施が義務付けられている事務事業か】	法律の義務付けあり	法律の義務付けなし
【民間活力の活用性評価】 (事業担当部局が評価)	民間等での実施または市民等との協働が可能である。 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。	